

小学校の教師を目指す学生の 持続可能な消費に対する意識と行動

金谷理利果・後藤彩香・丸山明日香

1. 研究の背景と目的

地球環境問題や貧困・社会的排除問題の解決に向け、世界では、持続可能な社会の実現のために自然環境・文化や社会・経済の3つの柱を掲げてSDGsに取り組んでいる。また、日本の学校教育においても新学習指導要領（2017-2018年公示）の全体理念として、「持続可能な社会の創り手の育成」が掲げられた。旧学習指導要領（2008-2009年公示）でも持続可能な社会の構築に向けて環境に関わる学びが重視されていたが、加えて社会的な課題解決への学びが取り入れられた。

こうした状況下で、小学校の教師を目指す私たちには、次世代を育成する知識とスキルを身に付けることとともに、自分自身が持続可能な社会を創る担い手であることを自覚したライフスタイルが求められると考えられる。そこで、小学校の教師を目指す学生の持続可能な消費に対する意識と行動の実態を明らかにすることを目的として、アンケート調査を行うこととした。

2. 方 法

2021年12月8日、弘前大学教育学部で小学校家庭科教育法を受講している91名の学生を対象にWEBによるアンケート調査を行った。調査項目は、(1)小中高の家庭科の教科書から抽出した単語の認知度、(2)持続可能な消費行動の実践度、(3)学校で受けた環境問題や社会問題に関わる印象的な授業についてである。回答数は67であり、有効回答数は、(1)64、(2)65、(3)67、有効回答率は、(1)96%、(2)97%、(3)100%であった。

3. 結果と考察

(1) 小中高の家庭科の教科書から抽出した単語の認知度

次頁の図1に示すように、「よく知っており説明できる」と回答した学生が多かった用語は、多い順に、「地産地消」、「食料自給率」、「地球温暖化」であった。他方、「カーボンフットプリント」、「エシカル消費」、「グリーンコンシューマー」の認知度は低かった。理科、社会科、技術科、家庭科などで重複して扱う用語は認知度が高く、単一教科での扱いや最近の取り組みに関わる用語は認知度が低いのではないかと考えられる。

(2) 持続可能な消費行動の実践度

図2に示すように、「非常によく当てはまる」と回答した学生が多かった消費行動は、「買

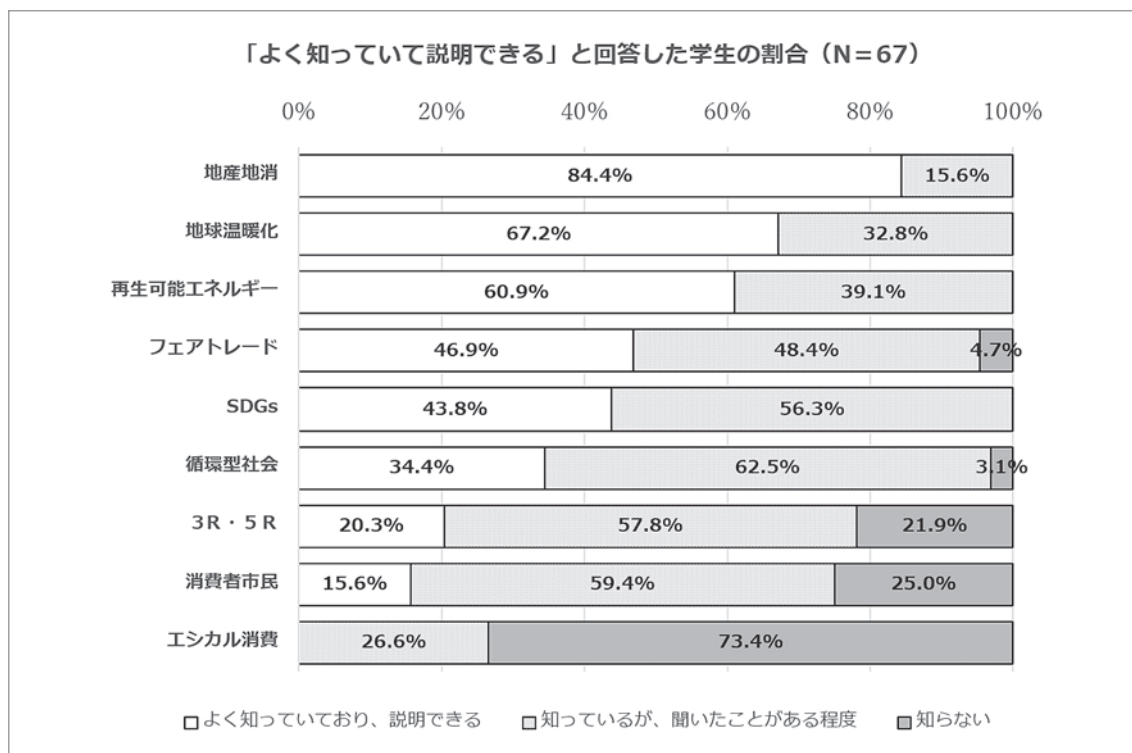


図1 小中高の教科書から抽出した単語の認知度

い物時にマイバッグを持参する」、「ゴミは地域のルールに従って分別して出す」、「油や食べかすなどを排水口から出さないようにする」であった。「似たようなものならフェアトレード認証ラベルのある商品を購入する」、「環境問題や社会問題に取り組んでいる企業であることを、商品購入の判断材料とする」の実践度は低かった。今の自分の生活に直結する行動は実践されているが、未来、世界、さまざまな立場の人々に配慮した行動は実践されていない傾向にあることが分かった。

(3) 学校で受けた環境問題や社会問題に関わる印象的な授業

印象に残っている授業があったと回答した学生は83.6%だった。学校段階別に見ると、「小学校」16.9%、「中学校」10.2%、「高等学校」11.9%、「大学」8.5%であった。教科別に見ると、「社会科」22.0%、「理科」9.5%、「家庭科」6.3%であった。また、学習内容は、「環境に関わる内容」67.9%、「横断的な内容」12.5%、「倫理的な内容」8.9%であった。学習方法は、「講義形式」37.5%、「体験形式、探求形式」16.1%であった。印象に残った学習内容に環境が多いという結果は、自然との共生や環境に配慮した生活を題材とした授業が展開され、学生たちが関心をもって学んでいたことがうかがわれる。

また、社会科で貿易ゲームを通してフェアトレードを学んだことがあると回答した学生の事例を分析した。この学生は、フェアトレードを「知っていて説明できる」と回答する一方、「似たようなものなら、フェアトレード認証ラベルのある商品を購入する」に対しては、「全く当てはまらない」と回答していた。

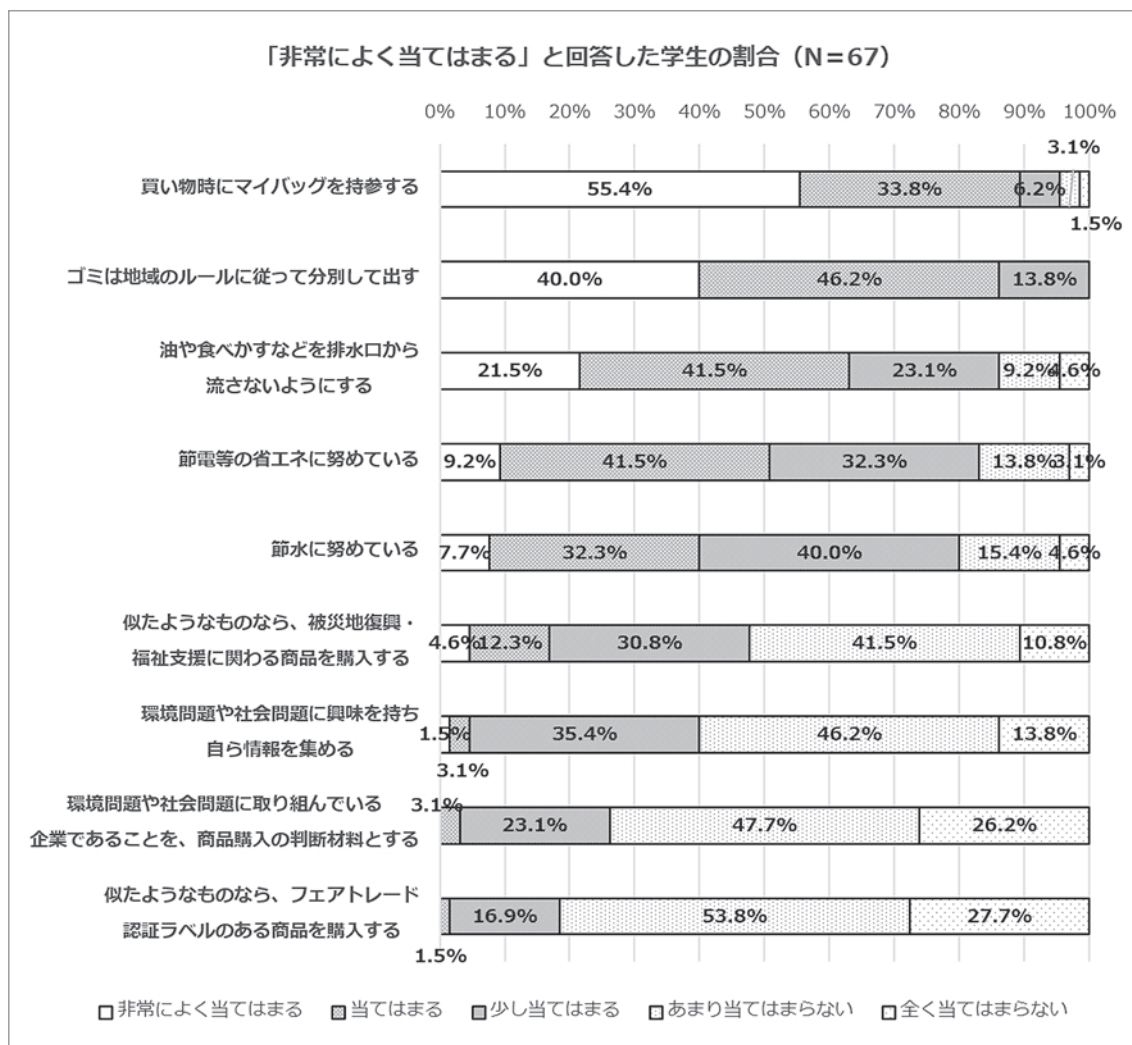


図 2 持続可能な消費行動の実践度

この背景には、地域におけるフェアトレード商品の流通の実態も関係するが、知識として認識していても、行動することは難しい現実が浮き彫りになったと考える。

4. 課題と今後の展開

まず、私たち自身のライフスタイルを見直して、自分自身が生活している地域の環境問題や社会問題に関心をもちながら、こうした課題に取り組んでいる企業の商品を購入するなど、持続可能な社会のための消費行動を実践する必要がある。

また、今回の調査をもとに、倫理的消費や自然環境に関わる知識や関心、行動と学習経験がどう関わりあっているのか、さらなる分析を行いたい。また、次世代の子どもたちが持続可能な社会の創り手として成長していけるように、持続可能な消費について理解し、行動につなげるための授業を考案していきたい。

(金谷理利果 弘前大学教育学部)